

2021年度第2四半期 決算補足資料

2021年11月10日

※売上重量数値に誤りがございましたので、2、6、7、8ページを差替えております。(11/18)



2021年度 第2四半期決算のポイント

(単位：百万円)

	2020年度 上期	2020年度 下期	2021年度 上期
売上高	36,836	56,137	54,647
営業利益	△3,802	1,248	△1,943
経常利益	△3,150	1,056	△1,680
当期純利益	△3,978	1,135	△1,780
売上重量 (2018年度を100とした指標)	53	84	74

*会計基準改定適用前売上高 57,225百万円

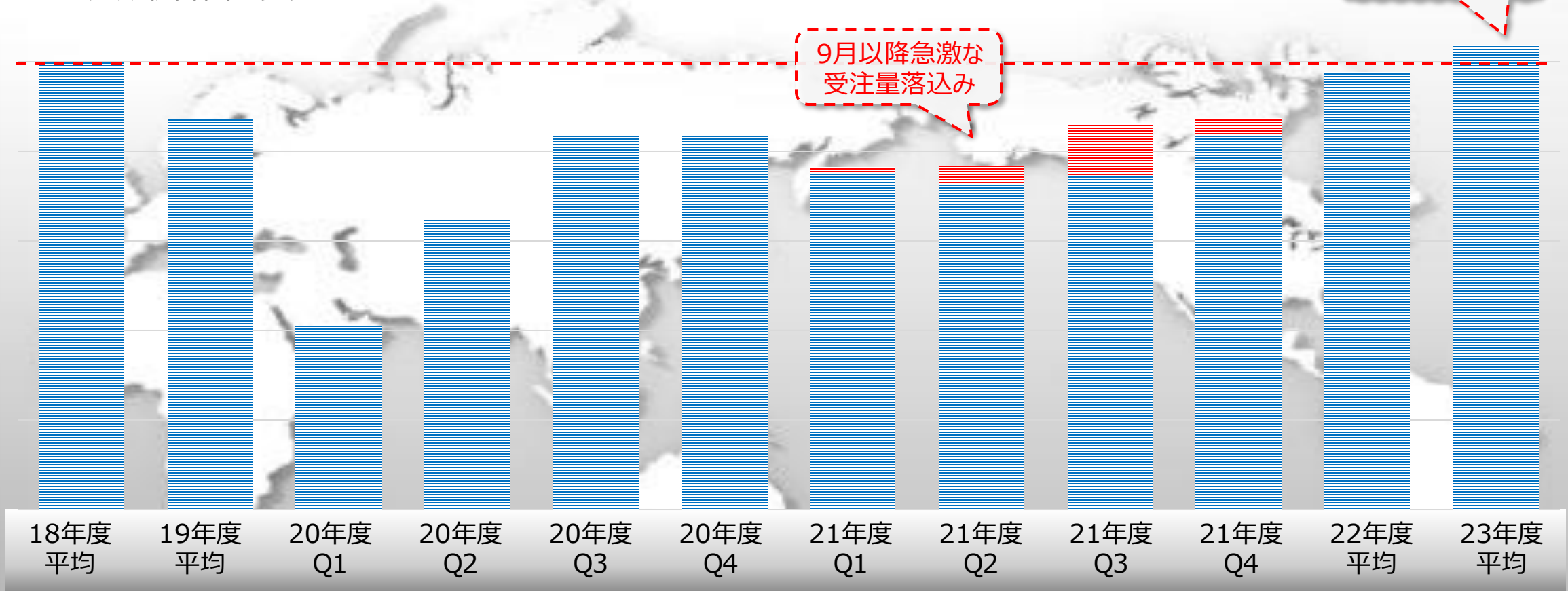
《全体感》

- 売上：売上重量は、20年度下期に新型コロナによる落込みから回復基調にあったが、当期においては世界的な半導体不足、東南アジアでの新型コロナ拡大による自動車部品不足による自動車生産減の影響で、前年下期から再度減少に転じる。売上重量減となる一方で、地金市況上昇と為替影響で売上高は微減にとどまる。
- 営業・経常利益：生産性の改善を継続するも、受注量減と地金市況高騰による調達コスト増が収益を圧迫し、赤字計上。
- 当期純利益：営業利益、経常利益の減益により純損失を計上。

グローバル 売上重量

■ 20年度Q1のコロナ影響から回復基調にあったが、21年度は半導体不足や東南アジアでの新型コロナ拡大による影響で第1四半期より販売量が減少。22年度には18年度並みに回復の見込み。

■ 対期初計画減少分

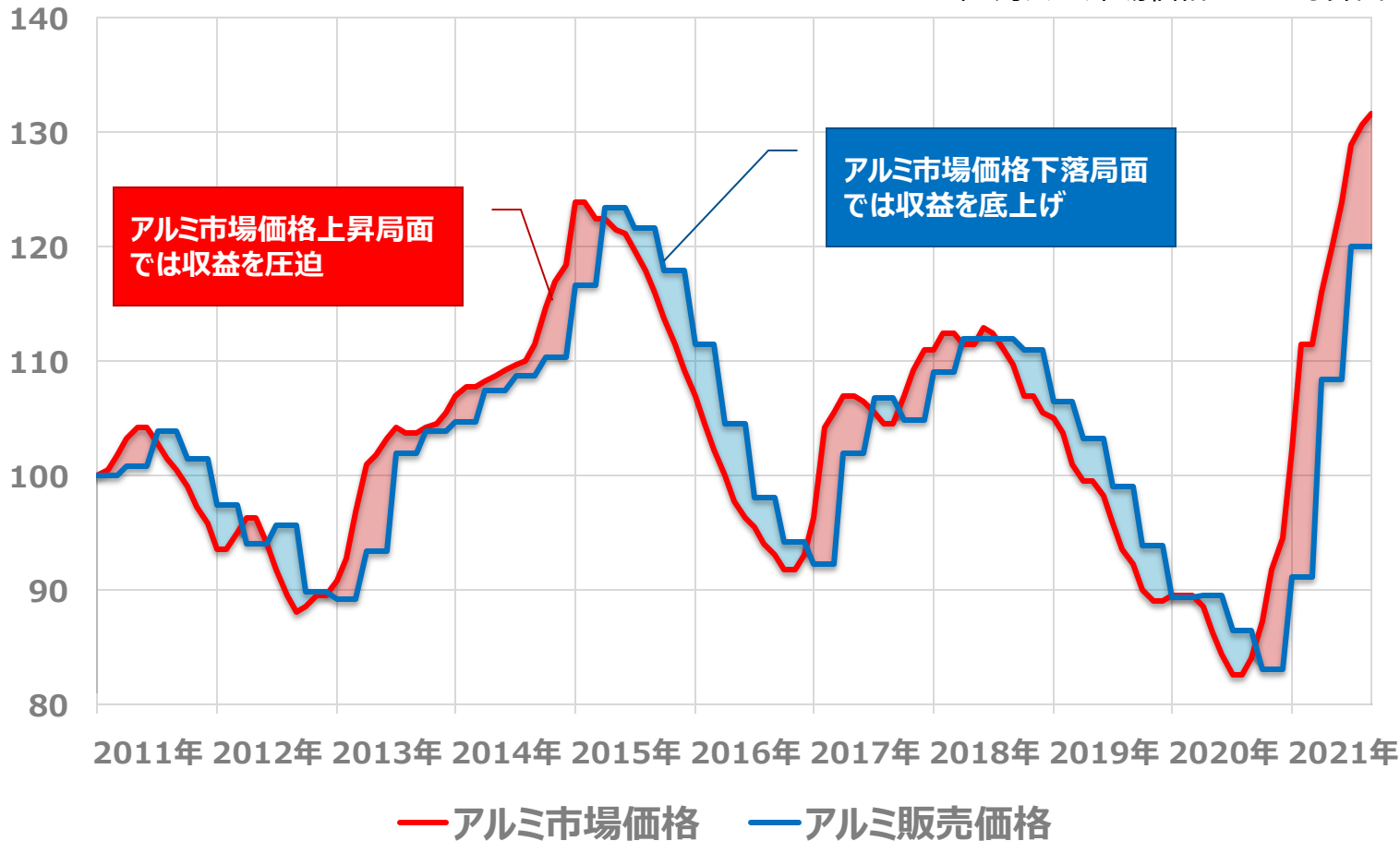


※2018年度平均を100とした場合の売上重量推移

アルミニウム地金価格

■ 2011年から10年間のアルミ市場価格とアルミ販売価格の推移

※2011年1月アルミ市場価格を100とし算出



□ アルミ市場価格変動影響

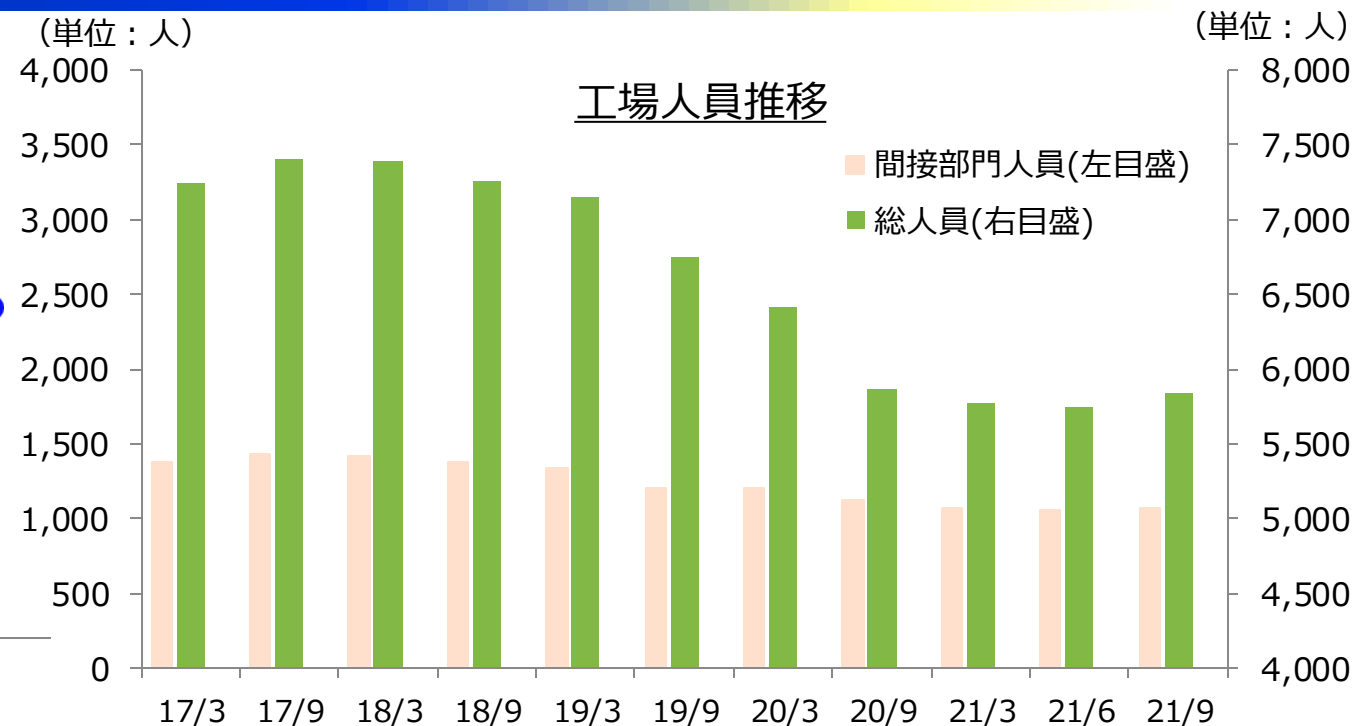
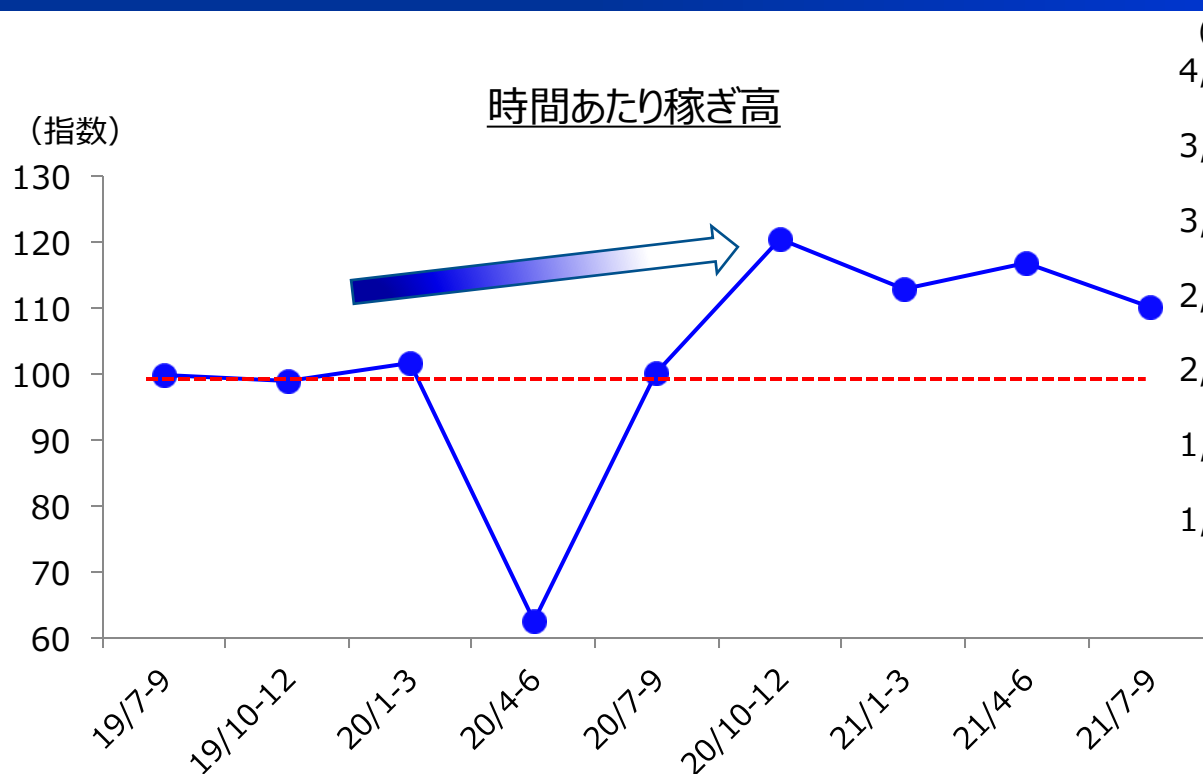
アルミ市場価格のアルミ販売価格への反映には時差が生じます。長期的に見れば平準化されます。

□ 2020年6月より60%市場価格が高騰

- ✓ アルミ地金生成に必要なシリコン価格の上昇影響
 - ・中国の電力不足・電力制限
 - ・太陽光パネル向けシリコン需要増
- ✓ 中国環境規制によるスクラップ新規制施行影響
 - ・スクラップの輸入制限

※直近アルミ新塊の市況は10/15 \$3,171を天井に下落、11/8現在 \$2,600で取引。

リーンな生産体制の推進状況



- ・リーン生産体制の推進により改善傾向を維持
- ・21年9月の受注量の急激な減少に対して生産体制の変更が追いつかず若干低下

- ・生産規模に合わせた適正な人員配置を推進
- ・全体ではラインの工夫、業務見直し等により効率化を継続

※時間あたり稼ぎ高 = 売上高から原材料費等の直接費を除く金額 ÷ 工場人員の総労働時間

ダイカスト事業

(単位：百万円)

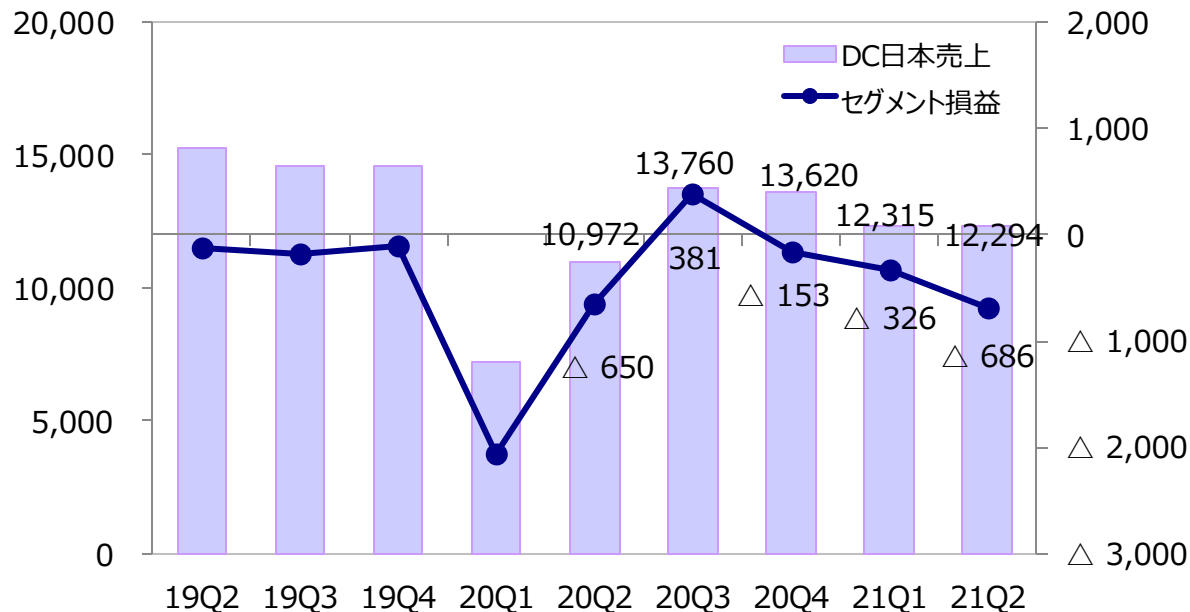
		2020年度 上期	2020年度 下期	2021年度 上期
日本	売上高	18,204	27,380	24,609*
	セグメント 損益	△2,719	228	△1,012
北米	売上高	8,610	13,018	14,190
	セグメント 損益	△323	417	△553
アジア	売上高	7,603	12,328	11,726
	セグメント 損益	△959	361	△643

※ 北米セグメントのメキシコ工場及びアジアセグメントの中国2工場は12月決算となります。

*会計基準改定適用前売上高 27,186百万円

ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



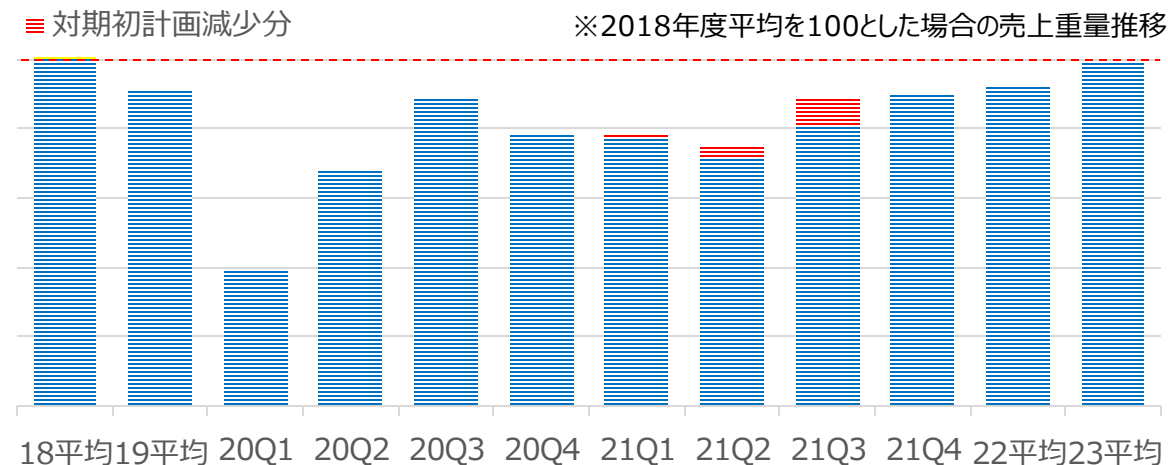
売上：64.1億円増（前期比35.2%増）

- 20年度第1四半期を底に販売量は回復基調にあったが、半導体不足や東南アジアでのコロナ拡大により回復に遅れ。

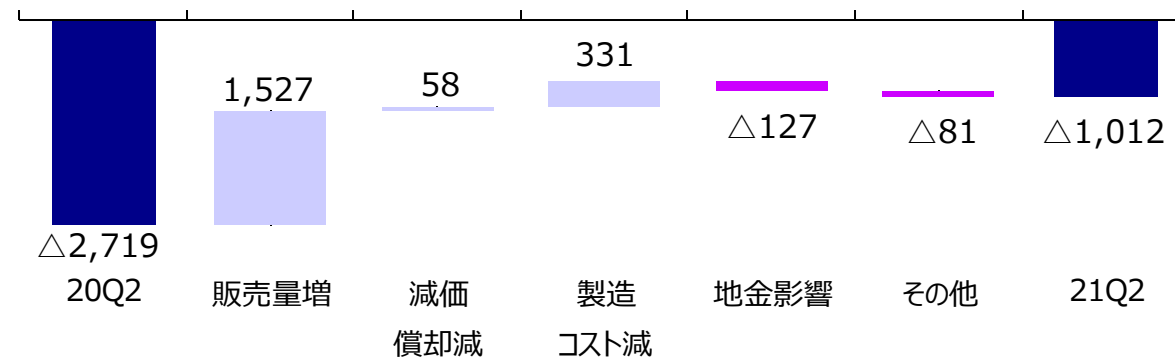
セグメント損益：17.1億円増（前期比増）

- 販売量増と生産性改善施策の推進により前年同期比損益改善も、地金調達価格の高騰による収益圧迫等により赤字を計上。

売上重量の推移

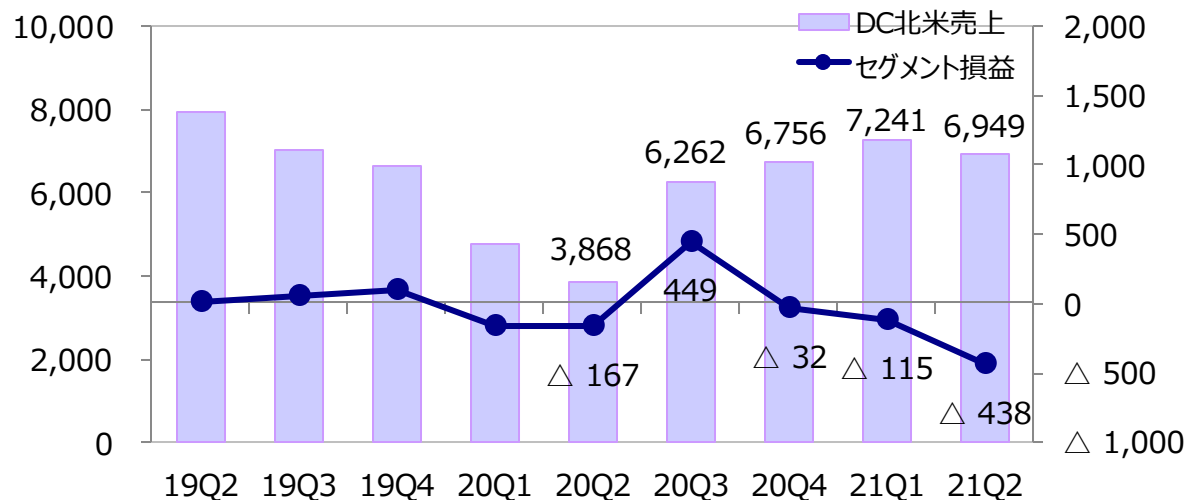


セグメント損益増減要因（単位：百万円）



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



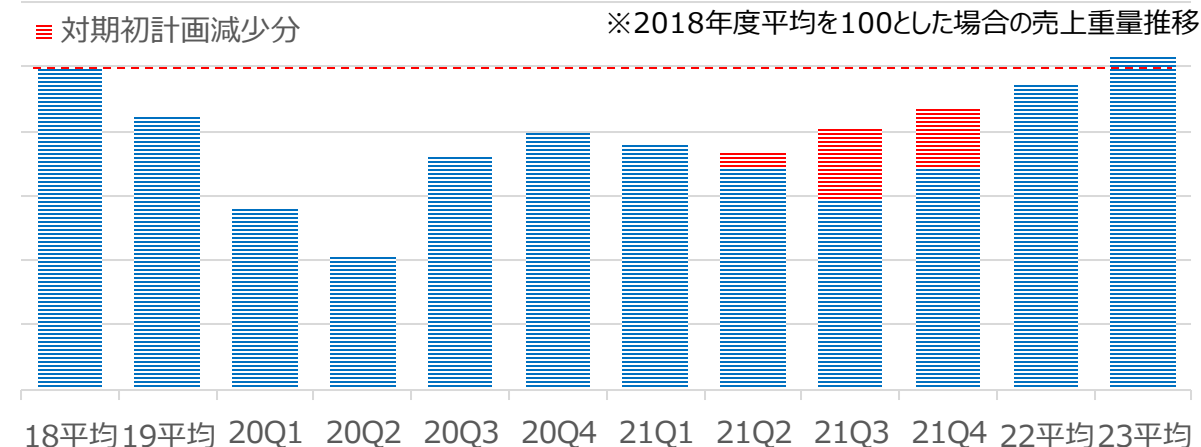
売上：55.8億円増（前期比64.8%増）

- 20年度第2四半期を底に回復基調にあるものの、半導体等自動車部品不足による顧客の生産調整等の影響で、21年度第2四半期では販売量が期初計画に対し減少。

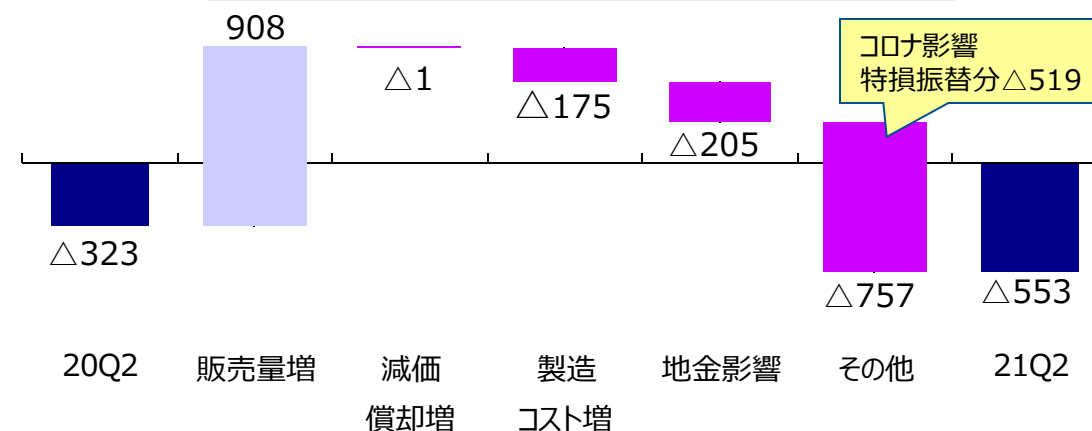
セグメント損益：2.3億円減（前期比減）

- 前年同期比、販売量回復による増収効果はあるものの、半導体不足による影響とアルミ地金調達コスト増等が収益を圧迫。

売上重量の推移



セグメント損益増減要因（単位：百万円）

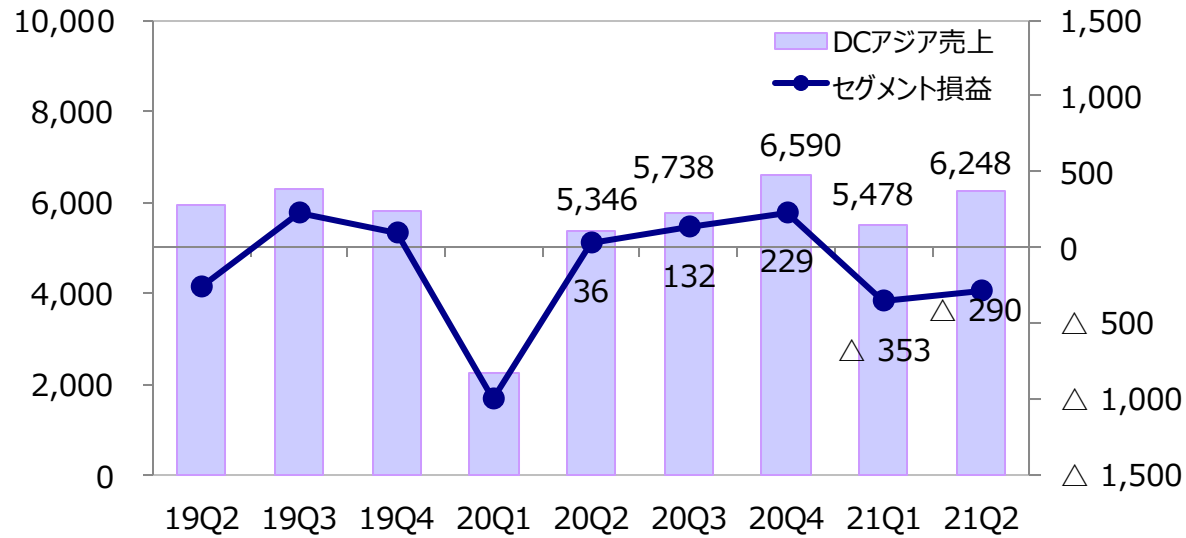


決算期:アメリカ3月期、メキシコ12月期

レート (20Q2⇒21Q2) アメリカ 106.68⇒110.21 メキシコ 108.44⇒107.76

ダイカストアジア

ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



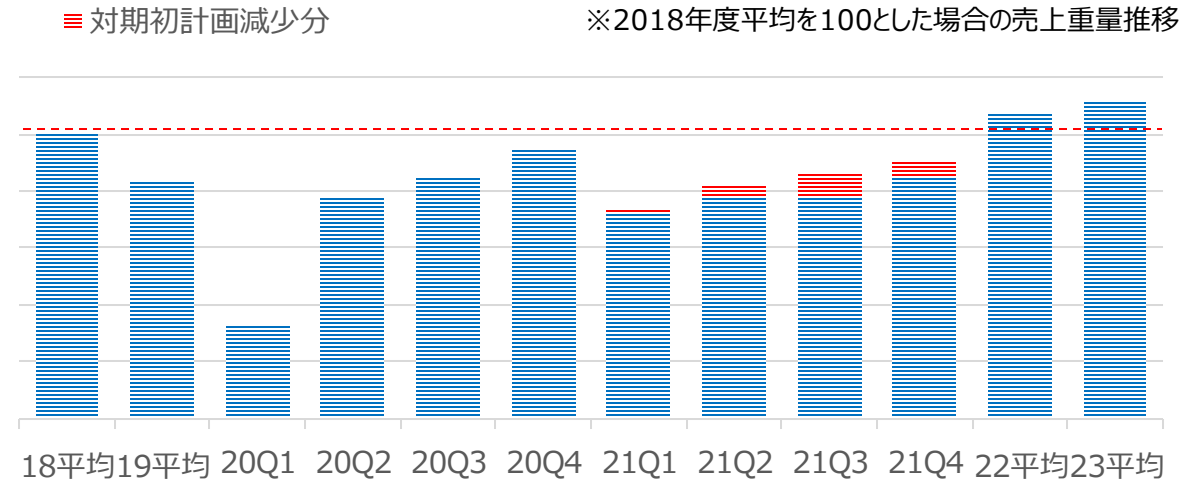
売上：41.2億円増（前期比54.2%増）

- 前年同期比では増収も当第1四半期におけるインドでのロックダウン等により期初計画に対し売上は減少。販売量も対前年下期比80%となる。

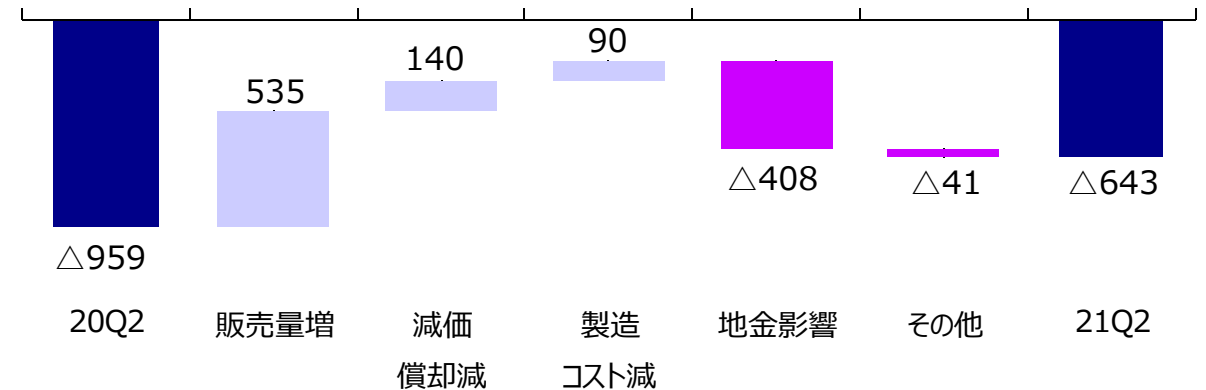
セグメント損益：3.2億円増（前期比増）

- アルミ市況の高騰による地金調達コスト増等が収益を圧迫。

売上重量の推移



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



決算期:中国12月期、インド3月期

レート (20Q2⇒21Q2) 人民元 15.37 ⇒16.64 インドルピー 1.43 ⇒1.50

アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2020年度 上期	2020年度 下期	2021年度 上期
アルミニウム事業	売上高	1,394	2,089	2,832
	セグメント 損益	△41	74	144
完成品事業	売上高	1,023	1,322	1,289
	セグメント 損益	148	172	112

アルミニウム事業

- 売上：足元では半導体不足等に伴う自動車メーカーの減産による影響があるものの、対前年同期比では45.3%増の売上重量となり増収。
- セグメント損益：アルミ市況の高騰はあるものの売上高の増加により増益。

完成品事業

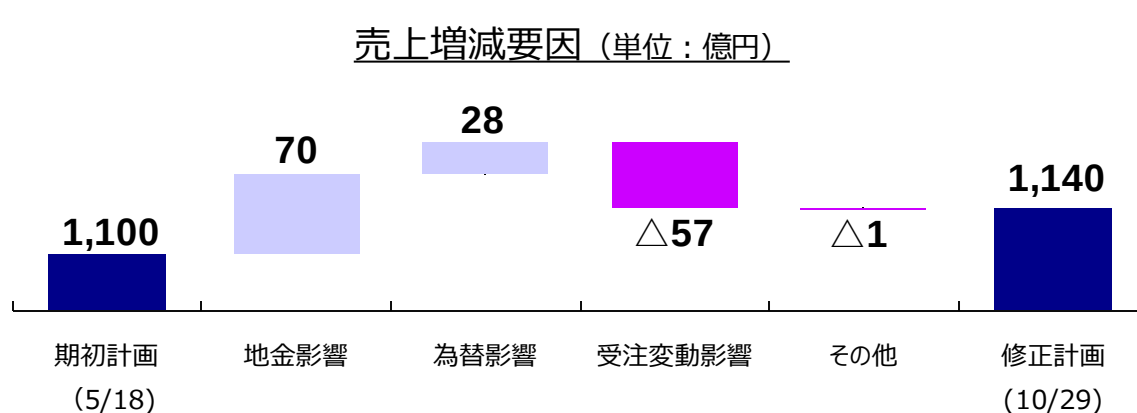
- 売上：対前年同期比では主要販売先である半導体関連企業のクリーンルームや通信会社のデータセンター向け物件等の受注が増加し増収。
- セグメント損益：個別受注物件による変動影響はありますが安定的な利益を確保。

2021年度 第2四半期計画対比

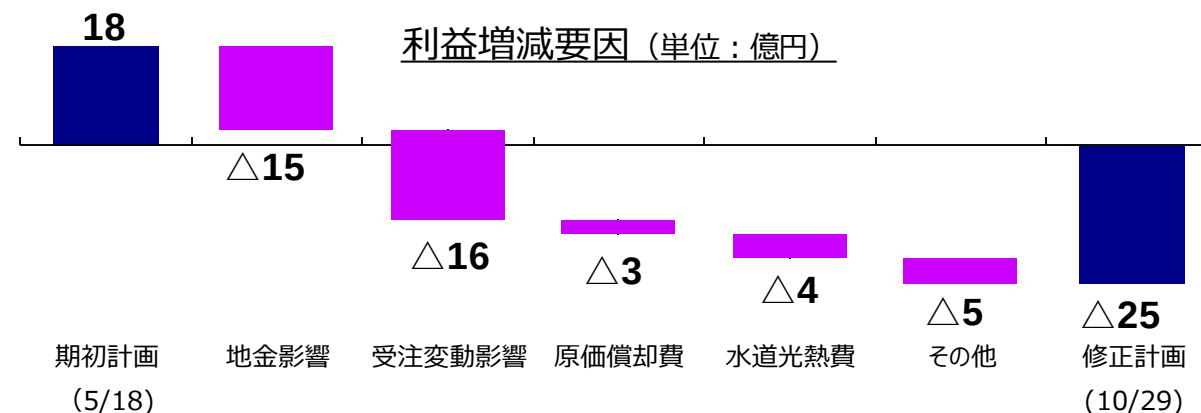
(単位：百万円)

	2021年度上期			2021年度下期			2021年度通期		
	期初計画	実績	期初計画対比	期初計画	修正計画	期初計画対比	期初計画	修正計画	期初計画対比
売上高	52,300	54,647	+2,347	57,700	59,360	+1,660	110,000	114,000	+4,000
営業利益	△750	△1,943	△1,193	2,550	△560	△3,110	1,800	△2,500	△4,300
経常利益	△850	△1,680	△830	2,450	△620	△3,070	1,600	△2,300	△3,900
当期純利益	△1,000	△1,780	△767	1,600	△1,040	△2,640	600	△2,800	△3,400
配当 (円)	5	5	－	5	5	－	10	10	－

売上増減要因 (単位：億円)



利益増減要因 (単位：億円)



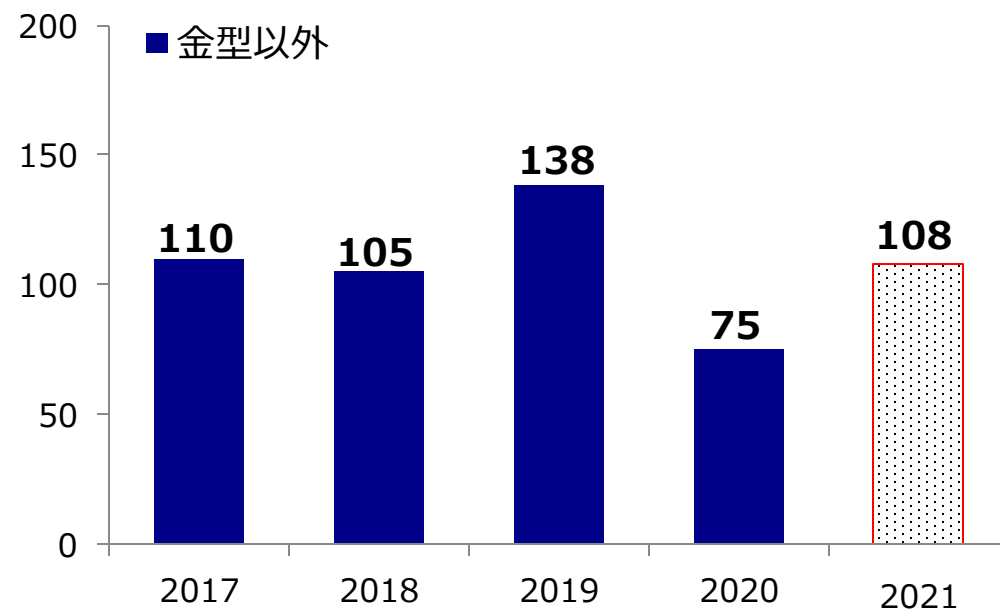
期初計画の前提レート (5/18) : USD 105.0円 人民元 15.0円 ルピー 1.45円
 修正計画の前提レート (10/29) : USD 110.0円 人民元 16.5円 ルピー 1.50円

設備投資・減価償却の動向

2021年度見通し

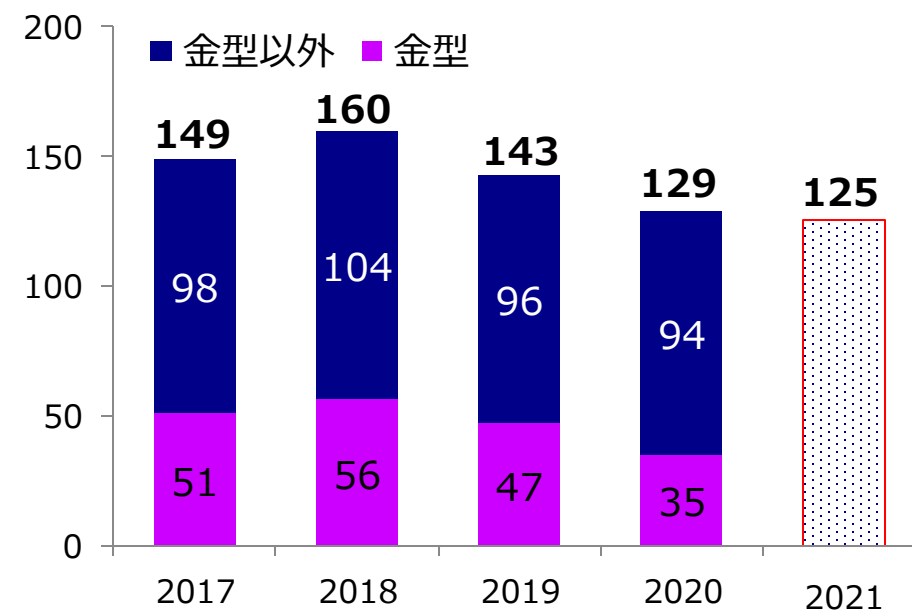
- 設備投資金額：108億円の見通し(計画比20億円の圧縮)。
- 減価償却費：設備投資圧縮により125億円の見通し。

設備投資額の推移（単位：億円）



※2021年度より金型の資産計上方法変更により、
設備投資は金型除く金額で表示

減価償却費の推移（単位：億円）



※2021年度より金型の資産計上方法変更により、
一部金型の減価償却を含まず



Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664

E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com

URL: <https://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。